



(稲又議員)



福岡県では「誰もが住み慣れたところで働く」を実現に向け若者の県内就職促進を図っています。私も常々、県内で生まれ育った若者が県内企業に就職し働いていただく事は本県にとって重要な取り組みであると考えます。

しかし、中には就職活動の仕方がわからない、働く意欲や自信がない、はじめの一步が踏み出せない、そもそも自分に合った職業や適性が分からないなど悩みを抱えながら生きている若者が多くいるのも事実です。

本県ではその対策として15歳から49歳までの方を対象に、過去の悩み・つまずきに対して寄り添い職業的自立をサポートする施設「若者サポートステーション」を厚生労働省との共同委託事業として福岡、北九州、筑後、筑豊の県内4拠点に設置。私も先日、地元の北九州若者サポートステーションを視察させて頂き働く皆様から現場の声を直接伺って参りました。

そこで、今回はこの「若者サポートステーション」について質問をして参ります。初めに、若者サポートステーションの取り組み状況を示す資料として、

県内 4 か所毎の相談件数、新規登録者数及び進路決定者数の推移状況の資料についてご説明お願いいたします。

#### 【就業支援課長】

資料は、県内 4 地域に設置しております若者サポートステーションの相談件数、新規登録者数、進路決定者数の令和元年度から令和 5 年度まで 5 か年の各地域の推移を記載しています。

相談件数は、福岡が 3,814 件、北九州が 3,849 件、筑後が 2,343 件、筑豊が 1,738 件であり、いずれの地域も、年度ごとに増減はあるものの、右肩上がり推移しています。

新規登録者数については、福岡が 249 人、北九州が 129 人、筑後が 152 人、筑豊が 72 人であり、福岡・筑後・筑豊は増加傾向にあります。

進路決定者数については、福岡が 204 人、北九州が 99 人、筑後が 108 人、筑豊が 42 人であり、いずれの地域でも概ね横ばいの状況です。

#### (稲又議員)

課長ご説明の資料にある通り、全体的に見ますとほぼ横ばい、若干右肩上がりというような状況であるということがわかりました。それでは次に、各サポートステーションで行っている具体的な支援の中身はどのようなものであるかお尋ねします。

#### 【就業支援課長】

就労に困難を抱える若者たちを支援する重要な拠点である若者サポートステーションでは、身近な場所で支援を受けられるよう県内 4 か所に拠点を設置するほか、定期的に出張相談を行うサテライトオフィスを 11 か所設置しております。また、ハローワーク等 4 か所においても出張相談を実施しています。

具体的な支援の内容としては、就労に向けた自分の適性や興味に合った職種

を見つける個別の心理相談やキャリア相談、ビジネスマナーや働くためのコミュニケーションのコツを学ぶ各種研修、実際の職場の雰囲気を理解するための就労体験・ボランティア体験など様々な選択肢を提供しています。

また、令和5年度からは、ひきこもり状態で自ら支援機関に出向くことが困難な方に対して、自宅にいながらパソコンやスマートフォンを利用して、メタバースという仮想空間上で支援を受けることができるサービスの提供を開始しています。

### (稲又議員)

県内4地域で行われている若者サポートステーションの取組は分かりました。その中でも私の地元選挙区でもあります北九州地域においては、北九州サポートステーションが入居する同じ施設内に、北九州市が運営する「若者ワークプラザ北九州」があります。同じ施設内にある事は非常にメリットがある反面、「若者」という名称がついた施設が同じ場所に複数ある事で相談者側からすると少しわかりづらい部分があるのではないかと考えます。

そこで、これらの役割の違い、そして連携はどのように行われているのかお尋ねします。

### 【就業支援課長】

「若者サポートステーション」では、学校卒業・中退後、離職後に無業状態にある若者に対して、就職活動に入る前段階として、就職に向けて一歩を踏み出す支援を行っています。具体的には、先ほど申し上げた心理相談・キャリア相談をはじめ、コミュニケーション力やビジネスマナー習得講座などを実施しています。

「若者ワークプラザ北九州」では、具体的な企業への就職を目指し、合同企業説明会、職場体験などを実施するとともに、無料職業紹介や職場定着のため

のフォローを行っています。

このため、「若者サポートステーション」で就職に向けて一步を踏み出す支援を受けた方を「若者ワークプラザ北九州」につなぐことで、より効果的に就職の実現に取り組んでいます。

(稲又議員)

決して相談件数が増えればよいという問題ではないことは承知を致しております。自分の不安や悩みを他者である相談員に打ち明けるのは勇気がいることです。相談者の話をじっくり聞き寄り添うことで徐々に築きあげる信頼関係という礎があってこそ、相談者に納得し満足いただける真の支援に繋がるのだと考えます。

さまざまな事情やニーズをお持ちの相談者一人ひとりに寄り添った丁寧な対応を行うため、県とサポートステーションがしっかり連携し、個々の対応の向上に努めることが重要であると考えますが、県の見解をお答えください。

【就業支援課長】

若者サポートステーションでは、県や国の職員と若者サポートステーションの担当者が、毎月の相談支援状況について事例の把握など、情報共有を行いながら緊密に連絡を取り、適切な支援に繋げております。

また、利用者の声や現場スタッフの意見も踏まえながら、個々の相談対応の向上に努めております。今後も、若者一人ひとりに寄り添った丁寧な対応に努めてまいります。

(稲又議員)

現場を視察した際に、1人でも多くの方に気軽に相談いただきたい、その為には学校等へ同ステーションの広報媒体の配布など協力をお願いしたいとのお話もありました。私も幅広く認知頂くことが企業と就職希望者のマッチング

に繋がるとは思います。今後の対応を伺います。

### 【就業支援課長】

県では、若者の就職や社会参加、自立などについて、若者サポートステーションをはじめ県内の幅広い支援機関の情報をまとめた「福岡県就労サポートマップ」を作成しています。このマップは、県ホームページに掲載するほか、市町村や各支援機関等を通じて、支援が必要なご本人のほかご家族など身近にいる方にも訴求するよう広く周知しています。

また、高校卒業して就職する方はもちろん、進学する方も含め、このような若者に対する支援制度があることを伝えることは重要なことと認識しています。このため、昨年度から県内全高校へチラシを配布し、若者サポートステーションの情報が学生に届くよう取り組んでいるところです。

今年度は、支援を必要としている学生に若者サポートステーションの情報が確実に届くよう、各学校の進路指導担当教諭が集まる場を活用し、チラシを配布する趣旨を丁寧に説明してまいります。

### (稲又議員)

若者が自立し、様々な人とのかかわりを持ちながら生活を送ることは、地域の活力にもつながります。就職についての悩みを抱えている若者の安定した就労に向けての労働局長のご決意をお願いいたします。

### 【労働局長】

少子高齢化が進む中、就労に困難を抱える若者たちを安定した就労に導くことは、経済的な自立のみならず、地域社会の基盤強化にも寄与するものと考えます。

若者サポートステーションは、若者の個々の事情に寄り添ったプログラムを通じて、若者のキャリア形成を支援し社会への円滑な移行をサポートしていま

す。引き続き、若者サポートステーションの活動を広く県民の皆様にご周知いただき、利用しやすい体制の確保を行い、一人でも多くの若者が職業的自立に向けて一歩を踏み出していただけるよう、しっかりと取り組んでまいります。

(稲又議員)

今、ご答弁頂きました事を踏まえて、就職に悩む県内の若者に安心感を与え、地元で働きたい若者が一人でも多く希望通り働けるように、引き続き尽力して頂きます事をお願いします。